

人間にとって 第2号 June 2026 目次

巻頭詩

埋み火 太田雅孝 …… 3

巻頭論評(1)

同化と異化、あるいは順応と不適応をめぐる闘い
—— グローバル時代におけるそれぞれの正義 編集主幹 …… 7

巻頭論評(2)

「として」、「にとって」に介在する外的・内的指向性 (続)
—— あわせて複合格助詞言語行為論への序章 H・T生 …… 15

❖ 批評

「危機の文学」と「文学の危機」(続)
—— 核時代に〈原爆文学〉はどう抗するか 忘却乃花 …… 25
誰もが商品の価値を決めることのできる時代にあつて
—— 児玉雨子「目立った傷や汚れなし」論 東口昌央 …… 57

創作 (1)

[小説] 聖断 大嶋岳夫 …… 85
[小説] おっさんと少年 田中 寛 …… 95

❖ 高橋和巳小特集

群衆の人びと—— 高橋和巳『憂鬱なる党派』再読 —— 橋本安央 …… 117
高橋和巳の『邪宗門』と『日本残酷物語』に関する一考察 太田 寛 …… 129
[遺稿]『邪宗門』における歌舞伎観劇について 太田 寛 …… 139
高橋和巳未発表草稿：「批評の任務」、「批評論」 解説：田中 寛 …… 141
高橋和巳「我が心は石にあらず」再読
書評(1) 高橋和巳のモチーフの変遷 「我が心は石にあらず」にふれて
『立命館学園新聞』(第1096号)再掲 同編集局 …… 159
書評(2) 高橋和巳著「我が心は石にあらず」
『三田新聞』(第1141号)再掲 同編集局 …… 164
[附論] 「我が心は石にあらず」にみる崩壊感覚
—— 戦争体験と戦中派の生きづらさの悲哀 田中 寛 …… 169

❖ 資料&研究

- 戦場の宣撫工作に内在する救済と自己観照 (2)
—— 池澤茂「支那犬」、「慰問団」他を読む 田中 寛 …… 185
戦争文学研究(2)
火野葦平のみた比島新文化運動の一端
—— 『比島風土記』所収「比島の文化」より 戦争文学研究会 …… 225

創作 (2)

- [小説] 夜の影 川口啓史 …… 229
[小説] 煙 (続) 飯山恵子 …… 243
[随筆] 隣の町へ 飯山恵子 …… 248
[小説] 朝顔に乞う 大内華子 …… 249
[随筆] 自由連想にて 大内華子 …… 256

❖ 研究・創作随想

- 杉原千畝記念館を訪ねて (飯山恵子) / チェンマイ日本語学校および
コタバルの調査から (山口雅代) / 日系インドネシア人との出会いと
学び (伊藤雅俊) / 「ロンドン移民二十五年」(石橋教行) / 韓国は今
(酒井順一郎) / 「ポプラ坂」(大嶋岳夫) …… 257

❖ 読書園地 文学・歴史・言語の思索

- 陽羅義光『心霊と文学 三浦清宏論』/ W・D・オーデン著、太田雅孝
訳『アキレスの盾』・太田雅孝『太田雅孝詩集 裏木戸』/ 高木俊朗
『特攻基地 知覧』/ 中尾茂夫『情報敗戦』/ 山梨正明『小説の描写
と技巧 言葉への認知的アプローチ』/ 安藤宏『近代小説の表現機構』
/ 金泰生『私の日本地図』/ 劉建輝他編『戦時下の大衆文化』/ 松元
崇『武器としての日本語思考』 …… 263

❖ 中国現代文学短篇小説

- 嫁の実家 石舒清[著] 時衛国[訳] …… 277

- ◆ 太田寛氏の急逝を悼む (140) / 人生の恩人、石川忠先生を送る (302)
- ◆ 亜細亜企画工房 新刊紹介 (299)
- ◆ 戦争文学研究会 (228)、お知らせ / 新世紀人文学研究会 (242)、近刊予告 (307)

- 執筆者紹介・編集後記・原稿募集要項 …… 303